Save the Children

子どもアンケート
～国による子どものための新しい取り組み～
調査結果

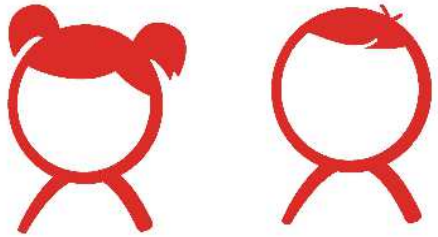


2021年11月20日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
国内事業部

目次

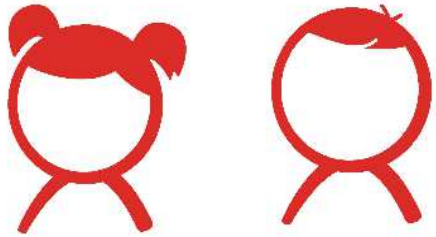
1. 調査概要
2. 調査結果と分析
3. まとめ



1. 調査概要

2. 調査結果と分析

3. まとめ

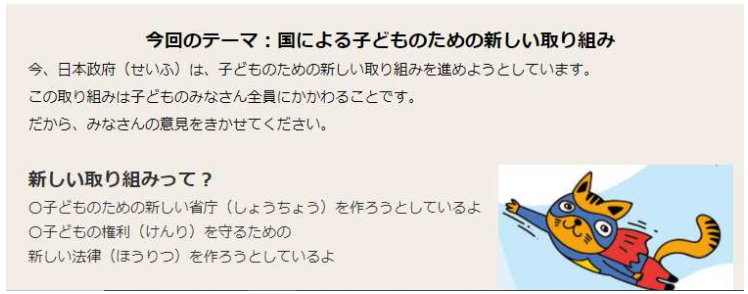


1. 調査概要

目的	子どもに関する新たな行政組織や基本法、意見表明などについて、実際に子どもたちがどのように考えているのかを把握し、子どもの声を取り入れた政策になるように働きかける。
対象	18歳ぐらいまでの子ども　※調査会社を通じて調査に回答した子どもは15～18歳
実施期間	2021年9月17日～2021年10月17日（1ヶ月間）※調査会社による調査：10月6日～10月11日
方法	①インターネット上でのアンケートフォーム（Microsoft Forms）を用いたウェブアンケート ②調査会社による専用調査画面を用いたウェブアンケート ※①②ともに質問内容・順番については統一

（アンケート特設サイト）
→ https://www.savechildren.or.jp/lp/kodomonokoe202109/





1. 調査概要（続き）

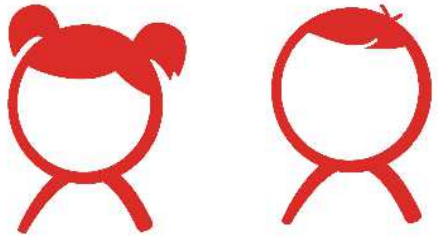
設問内容

1. 自分の身近なことで困っていること、心配なことはなんですか？
2. 今、答えてくれたあなたが困っていることの理由や具体例を教えてください。
3. 国は新しく子どものための省庁や法律を作ろうとしています。これについてどのように思いますか？
4. 質問3で、「とても期待する」「期待する」「あまり期待しない」「期待しない」と答えた人へ。その理由を教えてください。
5. 子どもの権利について知っていますか？
6. 質問5で、「内容までよく知っている」「内容について少し知っている」と答えた人へ。
「子どもの権利」に当てはまると思うことをすべて選んでください。
7. 大人（親・保護者、学校の先生、祖父母や親戚、学校の先生以外の大人、近所の大人、知事・市区町村長や地方議員、政府や国会議員)はあなたの考えや意見をきいていると思いますか？
8. 政治家（議員）に対して、社会や政治について、あなたは自分の意見を自由に言いやすいと思いますか。
9. 質問8で「とてもそう思う」「そう思う」と答えた人へ。自分の意見を自由に言いやすいと思った理由を教えてください。
10. 質問8で「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と答えた人へ。
意見を言わない・言いにくい理由について、当てはまるものをすべて選んでください。
11. 政治家や議員に自分の意見をどのように伝えたいですか？

1. 調査概要

2. 調査結果と分析

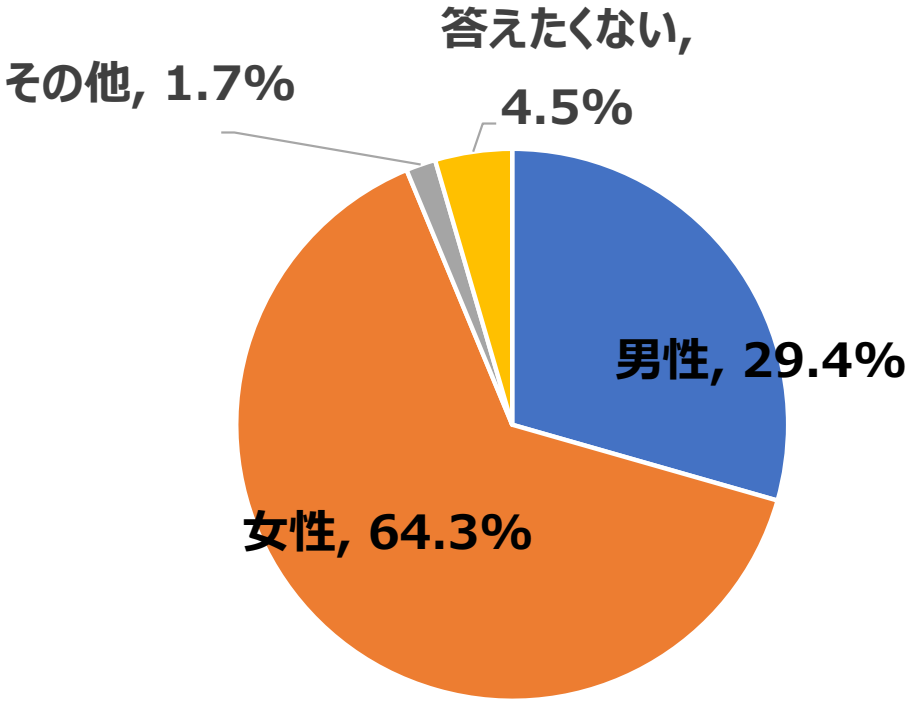
3. まとめ



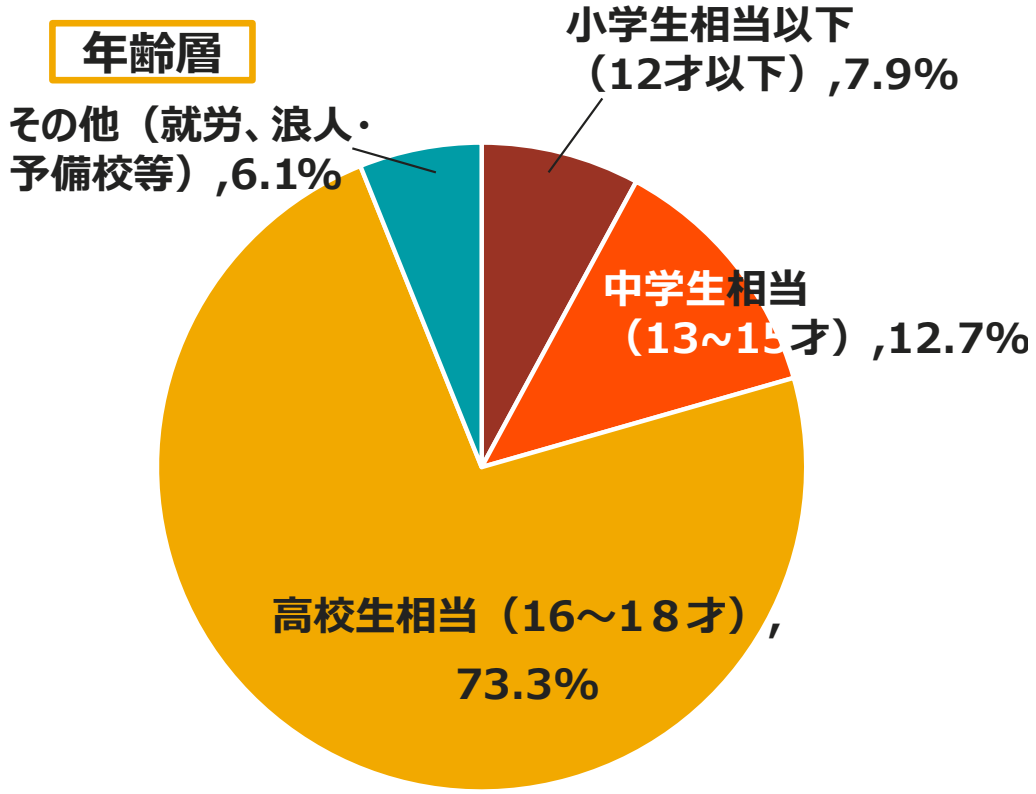
2. 調査結果（基礎データ）

アンケートの回答者は、2,984人 ※すべて匿名、氏名やメールアドレスなど個人情報は取得せず

性別



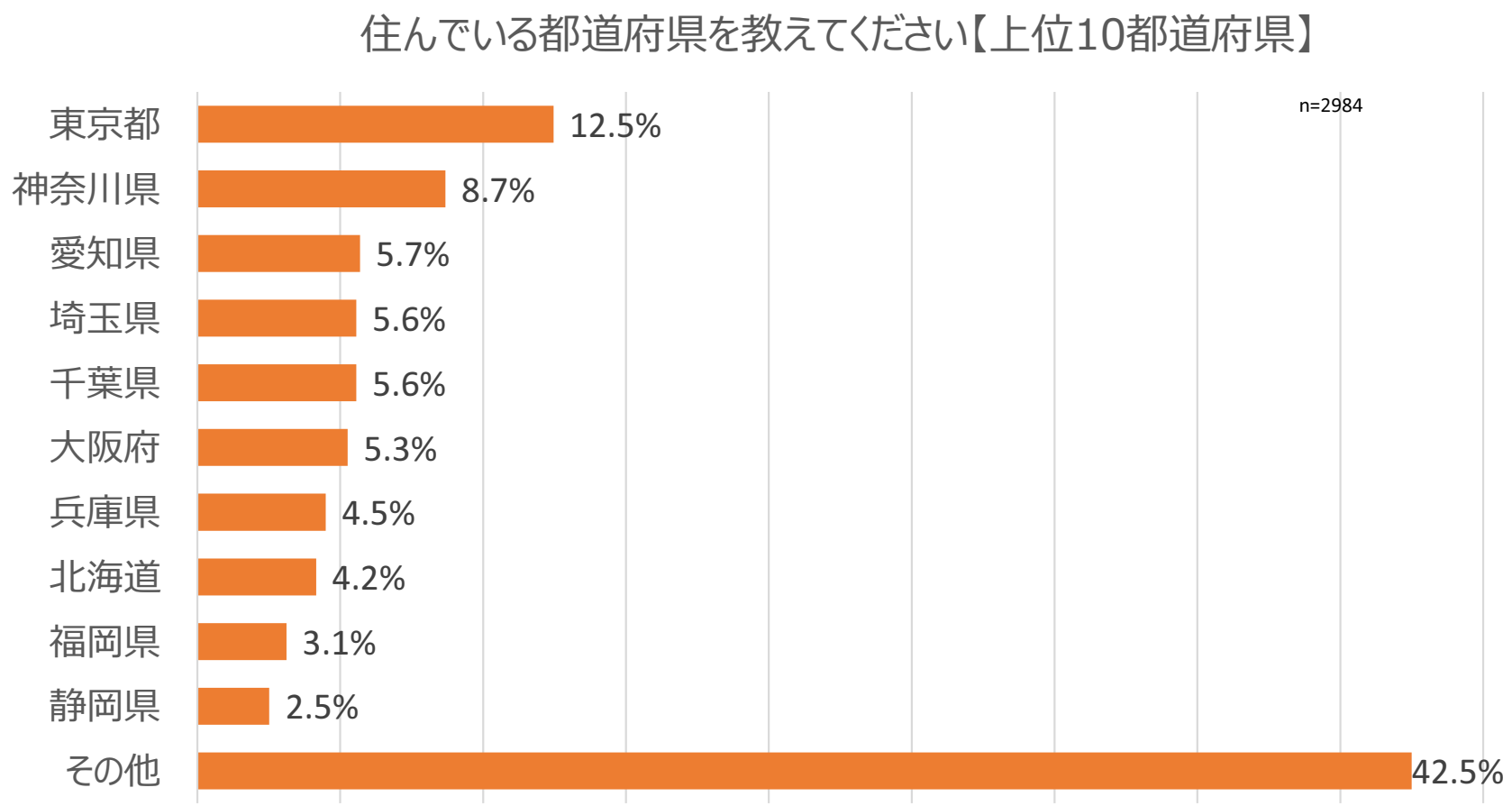
年齢層



※注記：調査協力者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の18歳までの子どもに妥当するものではない。

2. 調査結果（基礎データ）

居住地



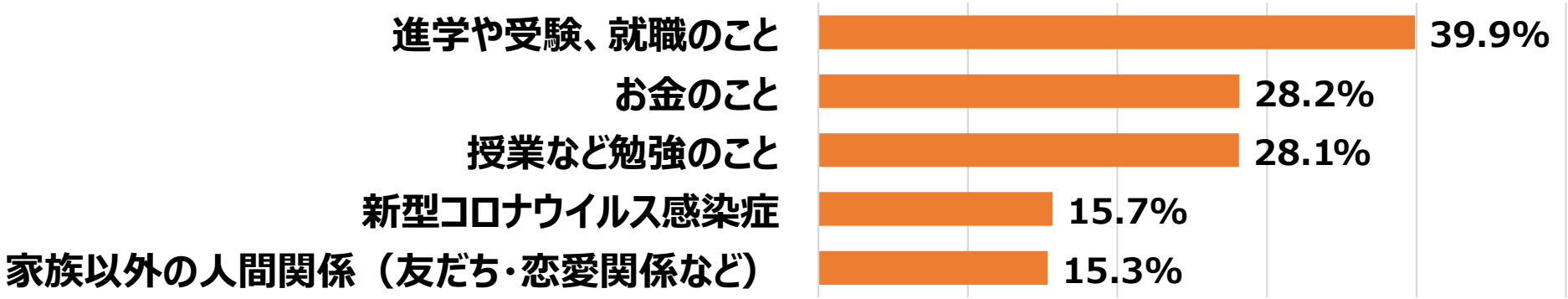
回答者の居住地構成割合は
首都圏（1都7県）38.0%、関西圏（2府4県）14.4%、東海（3県）9.6%

2. 調査結果（子どもの困りごと）

進学や受験・就職が約4割、お金・勉強のことがそれぞれ約3割

自分の身近なことで困っていること、心配なことはなんですか？

【回答結果上位5つ】（3つを目途に複数選択）



【その他の困りごと】			
特にない	12.5%	放課後や休日のこと（塾や習い事など学校外での学びや遊びを含む）	3.8%
アルバイトや仕事のこと	11.2%	インターネットやSNSを使うときのこと	3.3%
自分の健康や病気のこと	8.9%	気候変動や環境問題	3.1%
部活動のこと	6.9%	（自分、家族、友だちなどの）障害のこと	2.8%
校則のこと	6.6%	いじめ	1.9%
親・保護者のこと	6.6%	親・保護者以外の家族のこと	1.7%
自分のアイデンティティのこと	6.1%	わからない	1.7%
答えたくない	5.9%	差別	1.5%
学校などの先生のこと	5.1%	その他	1.0%

2. 調査結果（年代別：子どもの困りごと）
年代が上がるにつれて経済的な心配が増加
小学生は新型コロナへの不安が他の年代に比べて顕著に高い

【年齢層別】自分の身近なことで困っていること、心配なことはなんですか？【上位回答　5つ】
（3つを目途に複数選択）

小学生以下相当（12才以下、n=235）	中学生相当（13～15才、n=377）	高校生相当（16～18才、n=2188）	その他（就労、浪人・予備校等、n=182）
授業など勉強のこと	授業など勉強のこと	進学や受験、就職のこと	答えたくない
新型コロナウイルス感染症	進学や受験、就職のこと	お金のこと	お金のこと
進学や受験、就職のこと	お金のこと	授業など勉強のこと	進学や受験、就職のこと
お金のこと	家族以外の人間関係（友だち・恋愛関係など）	家族以外の人間関係（友だち・恋愛関係など）	特にない
特にない	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症	授業など勉強のこと

2. 調査結果（困りごとの具体例）～進学や受験、就職のこと

【困りごと　全体1位】 進学や受験、就職のこと　39.9%

自由記述で挙げられた不安の例：

- 進学希望先に合格できるかという不安
- 学力が足りない
- 志望理由書の書き方がわからない
- 将来自分が何をしたいのかがわからない
- 大学進学の入学準備がわからない
- 様々な進路を考えたい
- 入試が不安

将来のビジョンが見えなくて、どんな大学に進んで、どんな仕事につくか分からないので、この先どうやって生活していくんだろうという漠然とした不安があります（17歳）

来年就職だが、コロナで募集が減っているので心配（16歳）

2. 調査結果（困りごとの具体例）～お金のこと

【困りごと　全体2位】 お金のこと　28.2%

自由記述で挙げられた不安の例：

- お小遣いが足りない
- 自分の欲しいものが買えない・物欲がある
- 進学に関わるお金の不安がある
- 親が働いていない、収入が下がったため進学等に不安がある
- 親が借金をしている
- 摂食障害によりお金が足りない
- 自分の学費のせいで家族に迷惑をかけることに負い目を感じる
- 病気の治療費を親にもらえないので自分で稼いでいるがお金が貯まらない
- お金がなくて塾に行けない
- 今後お金を使いすぎてしまわないか心配

一人暮らしをしないと行きたい進学先に進めないが、金銭面的に厳しい（18歳）

親が病気で働けない為、学校に通えるのか心配（16歳）

2. 調査結果（困りごとの具体例）～授業など勉強のこと

【困りごと　全体3位】 授業など勉強のこと　28.1%

自由記述で挙げられた不安の例：

- 授業についていけるか不安
- "授業の難易度が上がることに対応すること"
- 勉強が難しく、ついていけない
- 成績があがらない
- 勉強のやる気がでない
- 自分にあった勉強方法がわからない
- 定時制に通っていること
- 勉強が上手くいかないことで周囲の大人との関係が難しくなる
- 勉強が簡単すぎるため、自分にあった学習をしたい
- 日本語が母国語ではない生徒への授業サポートが欲しい

自分に合った勉強法が分からずテストなどで良い点を取ったことがないから（16歳）

学力の差があるのに、クラスで同じことを学ばなければいけない。自分のレベルに合った学習を学びたい（11歳）

2. 調査結果（困りごとの具体例）～コロナのこと

【困りごと　全体4位】 新型コロナウィルス感染所のこと　15.7%

自由記述で挙げられた不安の例：
コロナによりやりたいことができない
（学習への影響、学校生活の制限、部活や学校行事、修学旅行ができない）

- コロナによる学校生活の制限による精神の落ち込み
- **バイトに影響が出てお金が稼げない、経済的な影響が出た人への補償の少なさ**
- 進学や就職に関する情報収集が難しくなり将来を考えにくい（オープンキャンパスの中止等）
- 学習環境の変化や勉強の予定が立てにくいなど「学び」に関する不安
- コロナに感染すること、感染者が増えることへの不安
- コロナワクチンを打たないことによる差別への不安
- コロナワクチンの副作用への不安
- コロナによる友人関係への影響
- 自分がコロナを人にうつしてしまうかもしれないことが怖い

コロナで制限があったりして、
なかなか学校生活が楽しめない
（17歳）

2. 調査結果（困りごとの具体例）～家族以外の人間関係のこと

【困りごと　全体5位】
家族以外の人間関係（友だち･恋愛関係など）のこと　15.3%

自由記述で挙げられた不安の例：

- 友人関係が難しい
- 友達ができない･できるか不安
- 友人と上手く話せない
- **友人に悪口や陰口を言われた**
- 友達に言われたことが気になる、言われたことに傷ついた
- 親友がいない

オンライン授業で友達が出来ない（18歳）

悪意なく、ただふざけている感覚で偏見の言葉を言う人がいて、自分が否定されたように感じた(17歳)

2. 調査結果（困りごとの具体例）～いじめのこと

困りごと・心配なこととして**「いじめ」を選択**した子どもは、**全体のわずか1.9%**

いじめを選択した子どものの自由回答で寄せられた声：

学校がいじめや差別を注意しても、する人は、素直に受け入れてくれない（17歳）

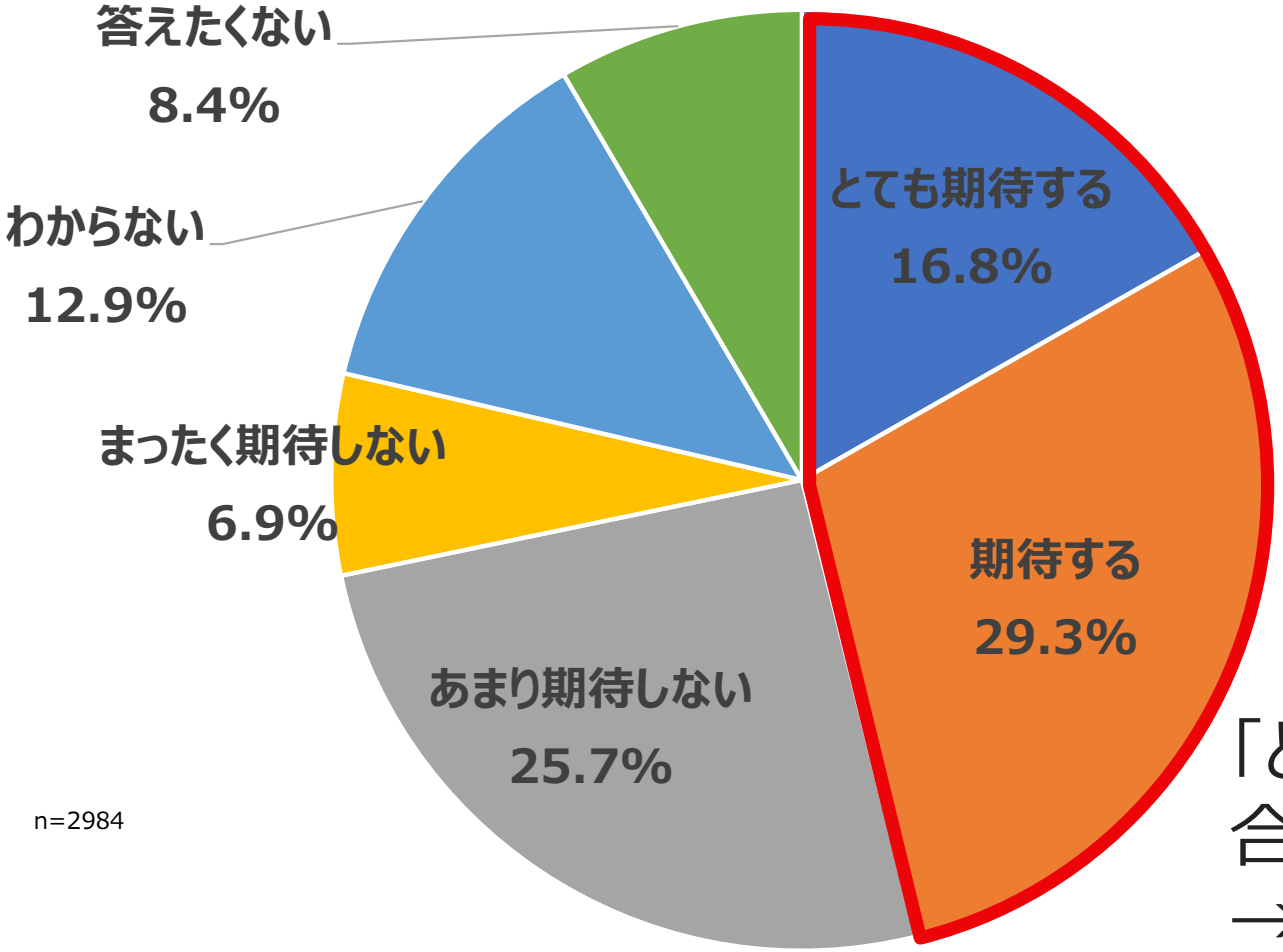
小学校、中学校計9年間の間のいじめが酷く、その影響で人としゃべることが怖くなった。もうこんな事が起きてほしくないし、助けてほしい（16歳）

しかし、**「いじめ」以外の困りごとを選択した子どもの自由回答において、いじめに関連する記述が57件**（1.9%）あり、合計で3.8%の子どもがいじめに関連する悩みを抱えている

- なぜ「いじめ」を選択しなかったのか？いじめられていると認めたくない、いじめだと認識していないといった理由が考えられる
- **たとえ匿名だとしても、子どもに直接にいじめなどの状況を確認したり、子どもたちの本当の困りごとを補足する難しさがある**

2. 調査結果（子どものための新たな省庁・法律への期待）
期待する子どもは約半数

国が、今、新しく子どものための省庁や法律を作ろうとしています。
これについてどのように思いますか？　（単一回答）



n=2984

「とても期待する・期待する」合わせて**46.1%**
→期待する子どもが約半数

Save the Children

2. 調査結果（子どものための新たな省庁・法律への期待）
今まさに困っている子どもの問題の解決、現状が改善することへの期待

国が新しく子どものための省庁や法律を作ろうとしていることに対して、「とても期待する」「期待する」と回答した子どもたちの主な理由は以下のとおり：

- 今までにない新しい政策だから
- 何かが変わったり、対策をしてくれると思うから
- 今よりも良い状況になってほしいから
- 政府が本気で動けば大人たちの認識が変わるから
- 子どもの声・意見が届くようになるから
- 高齢者のための政策が多く子どもに目を向けてほしいから
- 子どもは後回しにされがちなので、子どもに焦点をあてて省庁・法律をつくることで問題解決が早くなることに期待
- 相談できない子どもの助けになるから
- いじめや虐待、貧困で困っている子どもの問題が解決することを期待するから

自分が意見を出せるかもと思ったから(15歳)

子供のための、省庁や、法律を作ることによって、こどもが希望することで出来ることがふえ、学校生活が、楽しくなると思うから（10歳）

子供の権利は守られるべきだから(18歳)

2. 調査結果（子どものための新たな省庁・法律への期待）
子どもに寄り添い、本当に問題解決をするものになるのか？と懐疑的

国が新しく子どものための省庁や法律を作ろうとしていることに対して、「あまり期待しない」「まったく期待しない」と回答した子どもたちの主な理由は以下のとおり：

- 今までにも子どもに身近な問題が解決された実感がないから
- 期待するだけ無駄・期待しすぎるとよくないから
- 法律などを最終的に考え決めるのは大人であり、子どもに寄り添いきれないと思うから
- 政治家が経済的に困難な状況にある子どもの気持ちや子どもの生活や世界を理解をするのは難しいから
- 子どもの声が聴かれず、聴かれても反映されたのかわからないし子どもは政治に参加できないから
- 政府が遠い存在だから
- 本当に何かが変化するのか疑わしいから
- 本当に子どものための法律や省庁ができるか疑わしいし、形だけのものになりそうだから

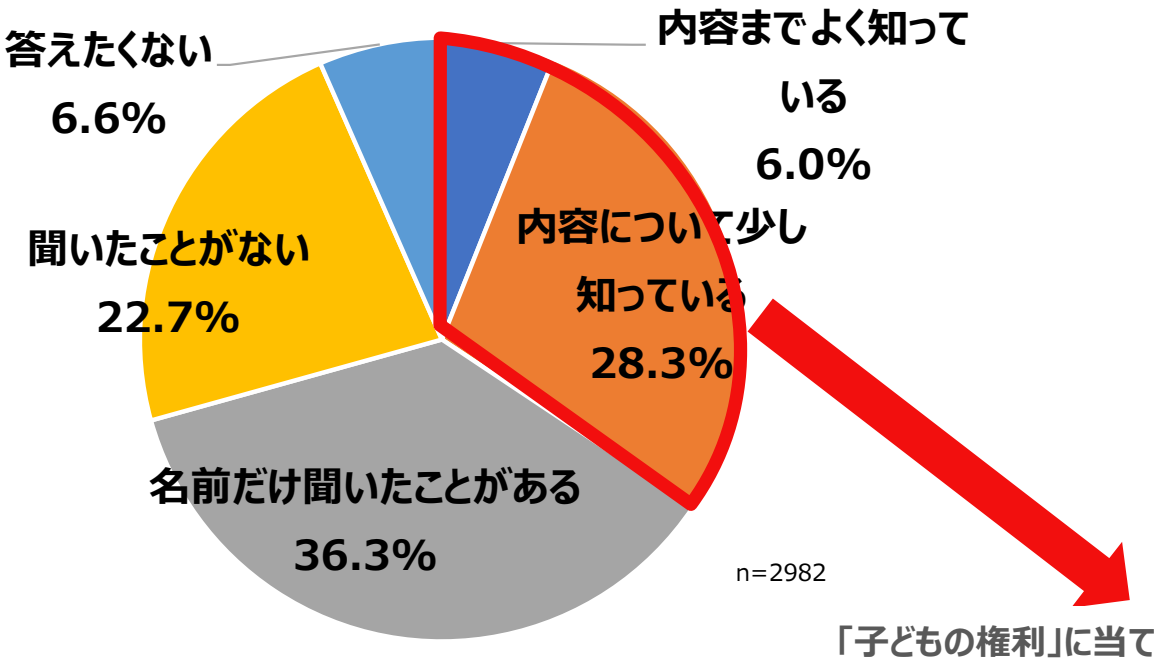
政府の人達が子供の意見を聞かずに大人の意見だけで日本を動かしている（12歳）

変わる前に大人になってしまうと思うから(14歳)

2. 調査結果（子どもの権利の認知度）

知っている子どもでも、意見を聴かれる権利や遊ぶ・休む権利については認知度が低い

子どもの権利について知っていますか？（単一回答）



n=2982

「子どもの権利」に当てはまると思うことをすべて選んでください。

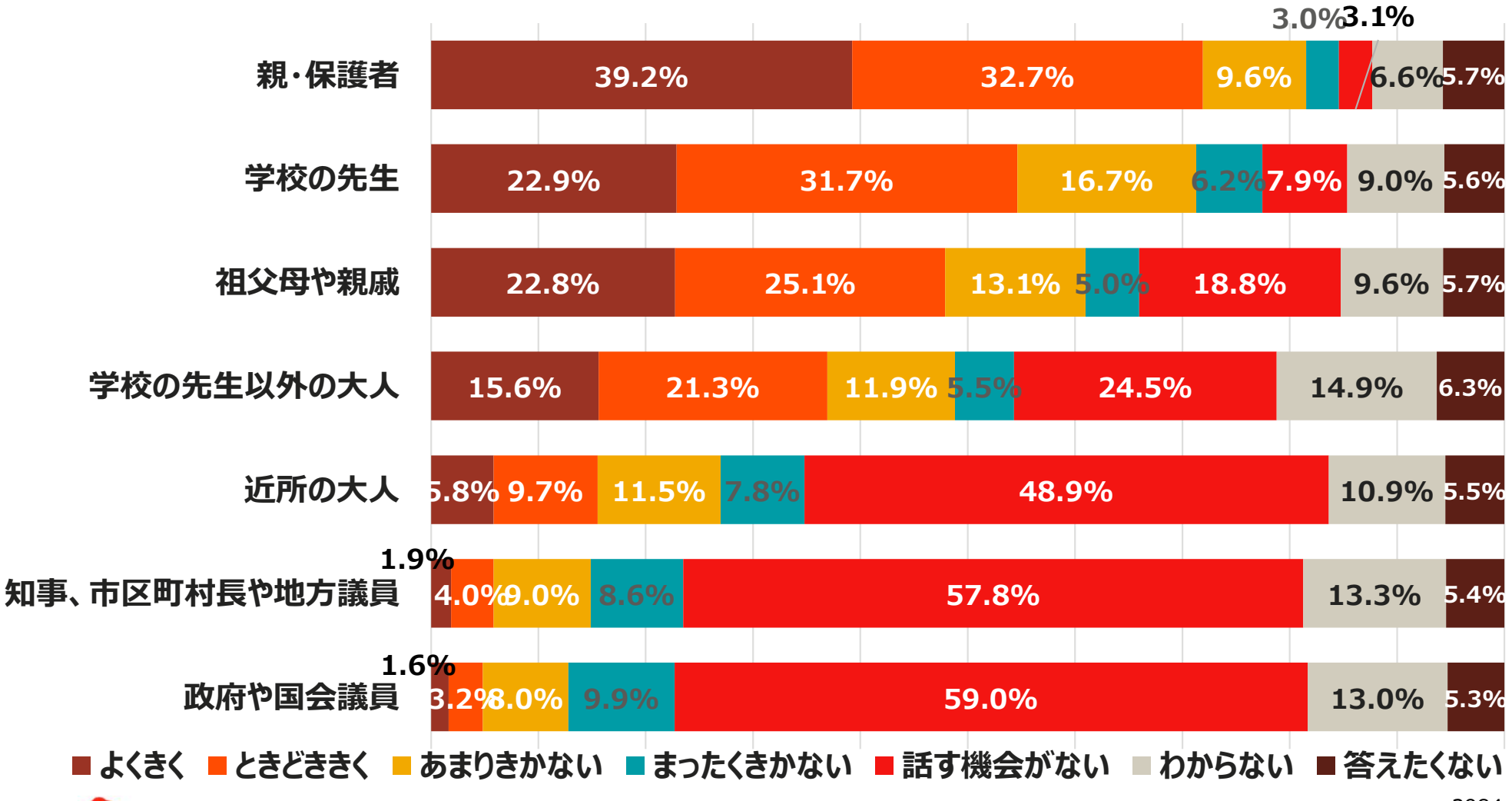
n=1025
※子どもの権利を良く／少し知っていると答えた人



Save the Children

2. 調査結果（大人は考えや意見を聴いているか）
約6割の子どもが国や自治体・議員と話す機会がないと感じている

大人はあなたの考えや意見をきいていると思いますか？　（それぞれ単一回答）

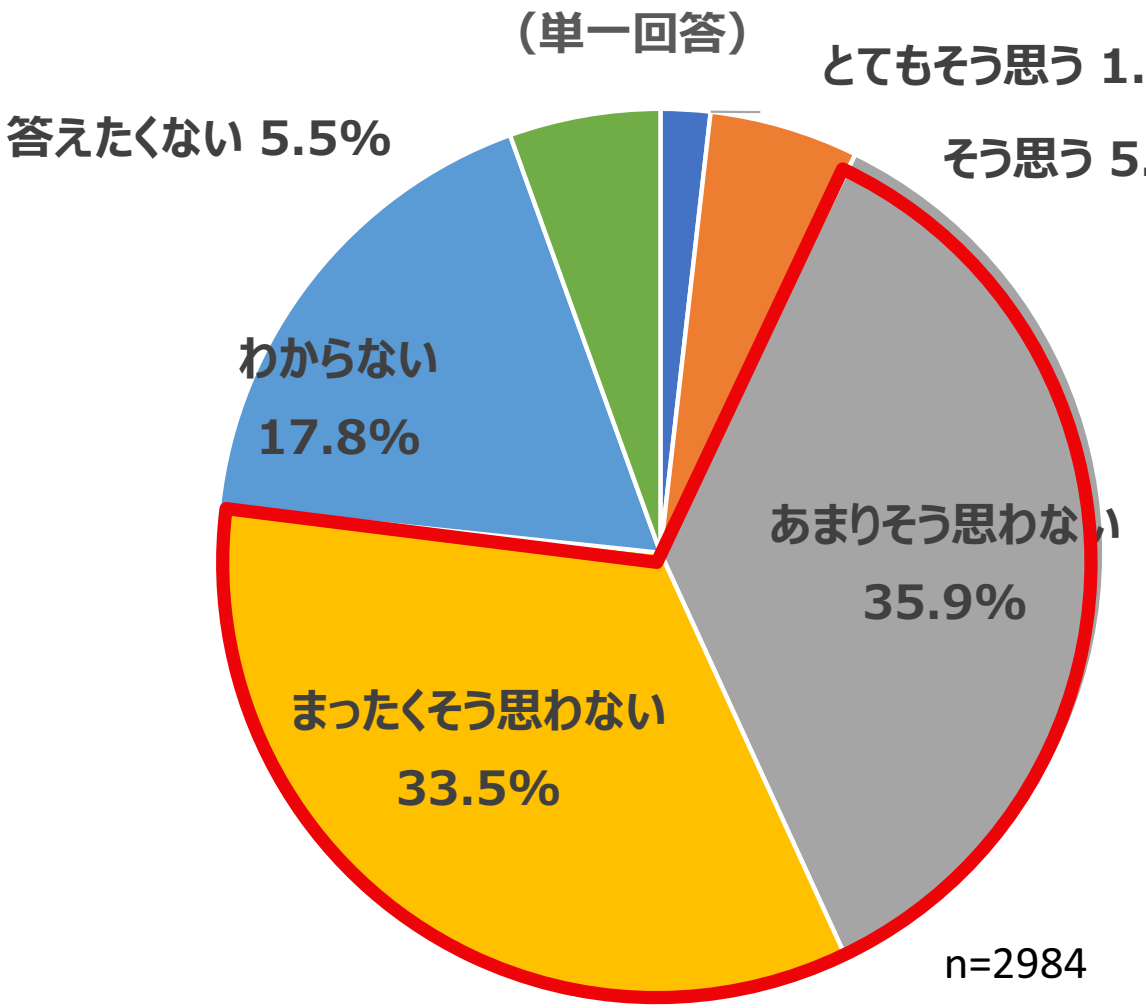


n=2984

Save the Children

2. 調査結果（政治家への意見の言いやすさ）
政治家に対して意見を言いやすいと思わない子どもは約7割

政治家（議員）に対して、社会や政治について、あなたは自分の意見を自由に言いやすいと思いますか。
（単一回答）

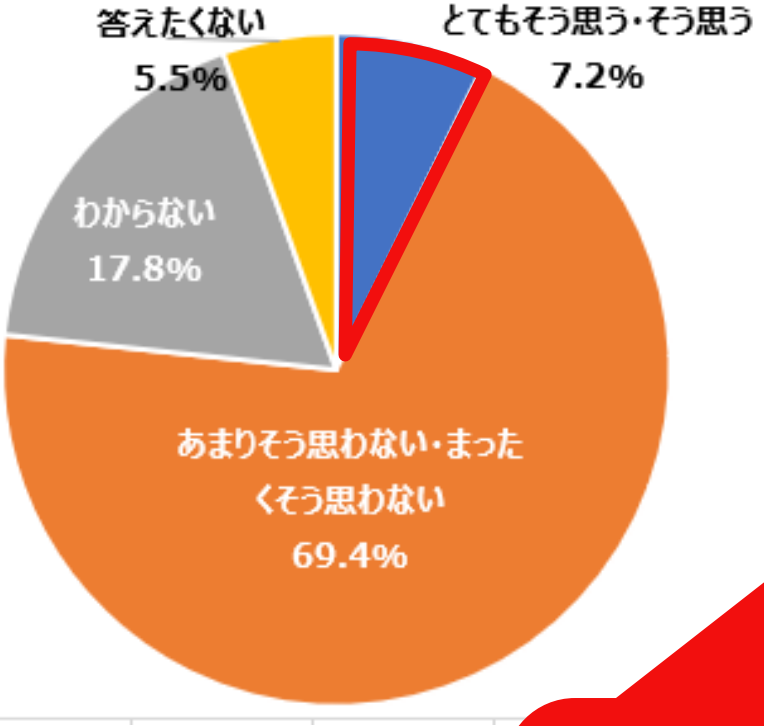


「とてもそう思う・そう思う」はわずか7.2%

「あまりそう思わない・全くそう思わない」合わせて**69.4%**

→約7割の子どもが、政治家に対して意見を言いやすいと思わない

2. 調査結果（政治家へ意見を言いやすい理由）
SNSによって議員を身近に感じる傾向大。反映されることを気にする子どもも



自由に自分の意見を言いやすいと回答した子どもの理由は以下のとおり

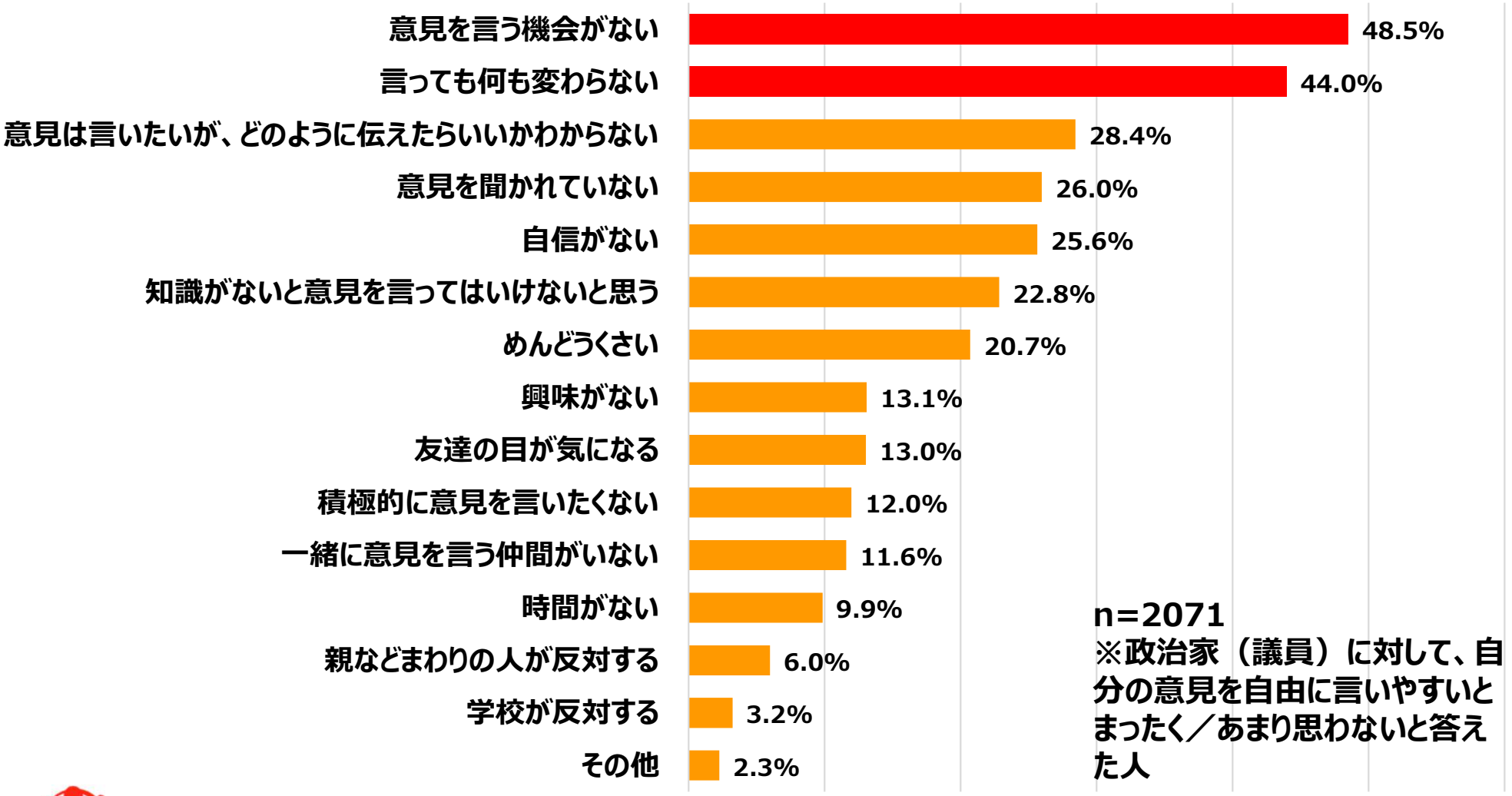
- SNS（Twitterなど）でコミュニケーションをとることができる
- 意見を届ける方法（意見箱や意見フォームなど）を知っているから
- 身近に議員がいる
- 意見は言えるが、政策に反映されていないと考える

いまではTwitterなどSNSがあり、議員もアカウントを持っているのでそこでリプライ等で直接意見を言える環境になったため(17歳)

NPO法人の主催するイベントで国会議員の方と直接話す機会を作ってもらえたから。しかしその提言が新たな政策につながるかといったらそうではないと思う。(15歳)

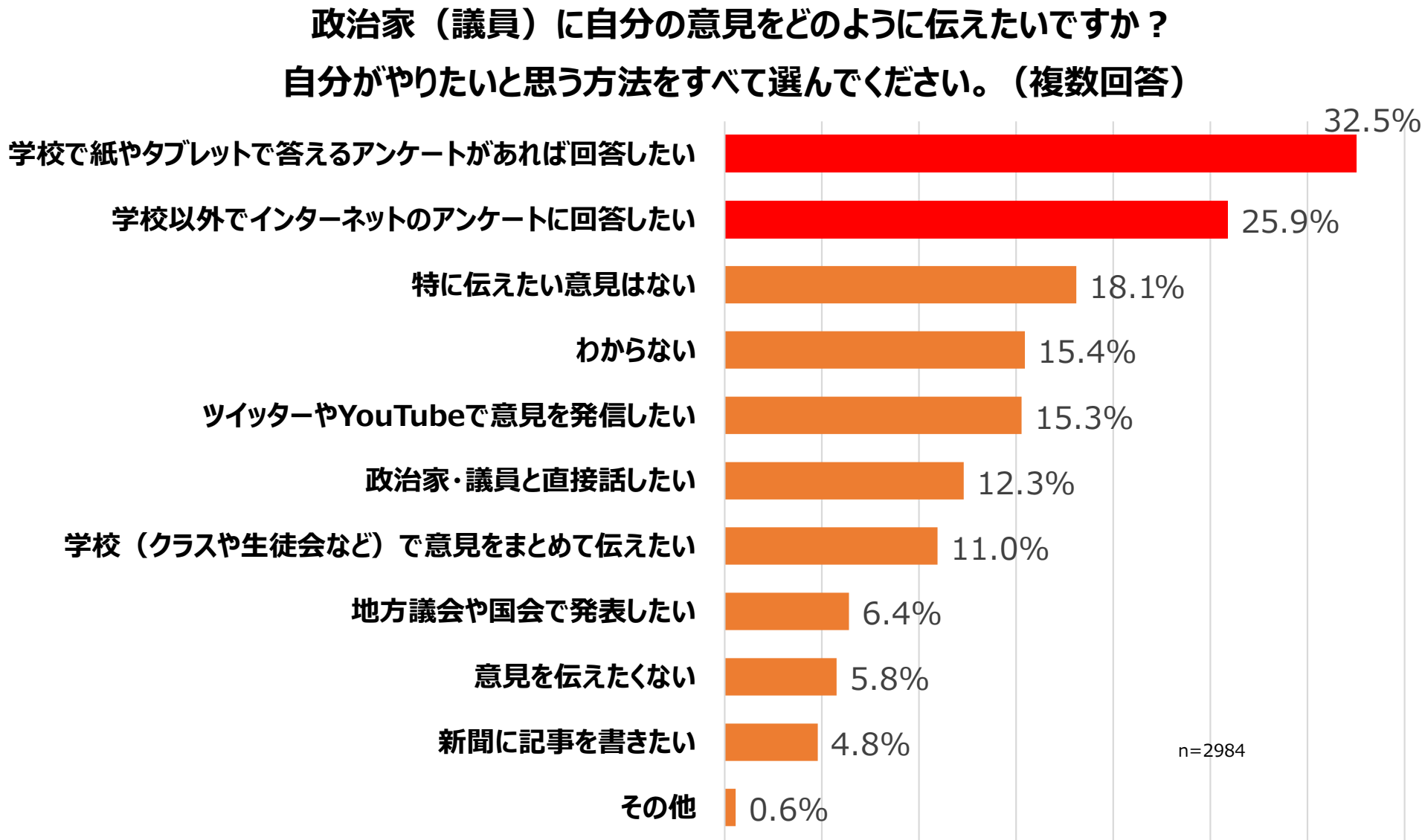
2. 調査結果（政治家に意見を言わない・言いにくい理由）
言う機会がない・言っても変わらないと回答した子どもが5割弱

自分の意見を言わない・自由に言いにくい理由について、
あなたの気持ちに当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答）



n=2071
※政治家（議員）に対して、自分の意見を自由に言いやすいとまったく／あまり思わないと答えた人

2.調査結果（政治家に意見を伝える方法）
匿名・アンケートであれば回答したいという子どもが約3割

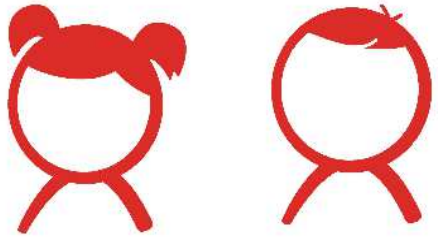


2.調査結果（議員に意見を伝える方法）
小学生は、直接話したい子どもが約2割、SNSの活用も有効

Q7 政治家（議員）に自分の意見をどのように伝えたいですか？
自分がやりたいと思う方法をすべて選んでください。（複数回答）

小学生以下相当（12才以下、n=235）		中学生相当（13～15才、n=377）		高校生相当（16～18才、n=2188）		その他※全日制以外（就労、浪人・予備校等、n=182）	
学校で紙やタブレットで答えるアンケートがあれば回答したい	57%	学校で紙やタブレットで答えるアンケートがあれば回答したい	36%	学校で紙やタブレットで答えるアンケートがあれば回答したい	31%	わからない	31%
学校以外でインターネットのアンケートに回答したい	33%	学校以外でインターネットのアンケートに回答したい	31%	学校以外でインターネットのアンケートに回答したい	25%	学校以外でインターネットのアンケートに回答したい	21%
政治家・議員と直接話したい	19%	ツイッターやYouTubeで意見を発信したい	17%	特に伝えたい意見はない	20%	学校で紙やタブレットで答えるアンケートがあれば回答したい	15%
学校（クラスや生徒会など）で意見をまとめて伝えたい	15%	特に伝えたい意見はない	16%	ツイッターやYouTubeで意見を発信したい	15%	政治家・議員と直接話したい	11%
ツイッターやYouTubeで意見を発信したい	14%	わからない	14%	わからない	15%	ツイッターやYouTubeで意見を発信したい	11%

1. 調査概要
2. 調査結果と分析
3. まとめ



まとめ①
子どもたちの困りごと・心配事について

子どもの困りごと・心配事は、多くの大人が子どもの時に経験した心配・悩みに加え、国・自治体が**制度・支援策をが早急に必要な問題、子どもの周りにいる大人（保護者・教員など）が考えるべき問題**など、多岐に渡る。

また、いじめや虐待、教員からの暴力（精神的なものを含む）などの子どもが本音を言いにくい問題については、**個人を特定しうる方法で直接的なアンケートなどを実施しても、課題が浮かび上がりにくい可能性**がある。

経済的な困難に起因する問題、学校・教育に関する問題、いじめ、親子の関係性に関連する問題などは、新たな行政機関創設によって早急に対応が求められる課題です。
匿名性を担保し、子どもと日常で密接に関わる大人に直接結果がわからないようにすることで、子どもが意見を言いやすくなり、その意見表明が問題解決につながりやすくなる可能性があります。

まとめ②
子どもに関する新たな取り組み（省庁創設・法律制定）について

子どものに対する新たな取り組みに、**「とても期待する」「期待する」と回答した子どもは約半数。**

一方、期待しない主な理由は、**本当に今の子どもを理解して現状を改善しようとしてくれるのかという疑問、不信感。**

子どもの権利を保障するという国の基本姿勢を定めた基本法の制定、その基本姿勢を実現し子ども政策を総合的・包括的に責任を持って進める行政機関が求められます。
その際に、子どもの声を聴き、子どもの最善の利益という視点をもって制度設計することが大切と思われます。

まとめ③
子どもの権利の認知度・理解度について

子どもの権利の認知度は、3割強（34.3%）にとどまる。

さらに、子どもの権利を内容までよく知っている・少し知っていると回答した子どもであっても、**子どもの権利の内容への理解や自分自身にどのような権利があるのかについての理解の程度にばらつきがある。**

子ども自身がいじめ、虐待、貧困などの権利侵害にあっていると認識し、子どもが自分自身を守る行動をとったり、それらの問題の解決を求めたりすることができるようになるためには、子どもが自分が権利の主体であると理解し、自らの日常生活の中で権利行使できるようになることを目的とした子どもの権利教育が求められます。
その前提として、教員をはじめ、子どもを取り巻くあらゆる大人が子どもの権利について深く理解しなくてはなりません。

まとめ④
子どもの意見を聴き、それを反映することについて

約7割の子どもたちが、政治家（議員）に対して、社会・政治について自分の意見を言いやすいと思っていない。その理由のうち2番目に多かったのが、**「言っても何も変わらない」**（44.0%）。

子どもたちは、自分たちの意見を言うことと同時に、**「（自分の意見を）言って、その結果どうなるのか？」**という点を冷静に見ていることが伺える

子ども政策の検討・実施にあたっては、当事者である子どもの声を聴き、それを適切に反映することが大切です。
子どもが自由に手軽に自分の意見を言うことができる環境・機会を作るとともに、意見を言って、自分自身や自分を含む同世代の生活が改善したという体験を積み重ねていけば、不信感がなくなることにつながる可能性があります。

まとめ⑤
子どもの声が政治や行政に反映される仕組み・その方法について

政治家（議員）に対して、社会や政治について、自由に自分の意見をいいいやすいと思わないと回答した子ども（約7割）の半数近くが、その理由を**「言う機会がない・言っても変わらない」**としている。

意見を伝える方法として、**匿名・アンケートであれば回答したい**という子どもが約3割にのぼった。

子どもは政治や社会にまったく関心がないかと言えば、決してそうではありません。国や行政、議員の側が意見を聴く仕組みを整えれば、子どもたちの意見を聴くことができます。例えば、GIGAスクール構想で普及したタブレット・PCの活用などが一案です。
直接対話をする場合は、子どもが話しやすい雰囲気、大人側の聴く姿勢、そして子どもたちへのフィードバックが重要になります。